



市内1例目の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生について

令和8年9月8日（火曜日）、豊橋市内の医療機関から豊橋市保健所に重症熱性血小板減少症候群（以下「SFTS」という）の発生届が提出されました。愛知県内でSFTS患者が発生するのは、今年9例目です。豊橋市内でSFTS患者が発生するのは今回が初めてです。

SFTSは、主にSFTSウイルスを保有するマダニ（※）に咬まれることで感染します。マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まるため特に注意が必要です。

※マダニは、食品や衣類などに発生するダニとは全く種類が異なります。

## 1 患者概要

- (1) 患者 80 歳代男性  
(2) 主な症状 発熱、意識障害、血小板減少、肝機能障害、腎機能障害

## 2 判明までの経過

- |            |                                   |
|------------|-----------------------------------|
| 8月30日（日曜日） | 症状出現<br>市内医療機関受診、入院               |
| 9月7日（月曜日）  | 保健所から愛知県衛生研究所へ検査依頼<br>入院先の医療機関で死亡 |
| 9月8日（火曜日）  | 検査結果が陽性と判明                        |

※感染経路は現時点では不明です。

### 3 SFTSについて

主な初期症状は発熱、全身倦怠感等で、重症化し、死亡することもあります。多くの場合、ウイルスを保有するマダニに刺されて感染します。また、SFTS ウィルスに感染した猫や犬との接触により感染したと考えられる症例も報告されています。患者の体液との接触による人から人への感染も報告があります。

## 4 予防方法

- (1) マダニについて

- ①マダニに咬まれないために
- ・草むらや藪などに入る場合は、肌の露出を少なくしましょう（長袖・長ズボンを着用する、足を完全に覆う靴を履く）
  - ・虫除け剤を適切に使用しましょう。
  - ・屋外活動後は入浴し、ダニに咬まれていないか確認しましょう。

## ②マダニに咬まれた場合

- ・マダニに咬まれているのを見つけたときは、できる限り直接手でダニを取ったりつぶしたりせず、皮膚科などの医療機関で処置を受けるようにしてください。（無理に引き抜こうとすると、ダニの一部が皮膚内に残ってしまう場合があります。）
- ・マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

## （２）その他

- ・SFTS ウイルスに感染し、発症している動物の血液や唾液などの体液に直接触れた場合、SFTS ウイルスに感染する可能性があります。
- ・野生動物は、どのような病原体を保有しているか分かりません。野生動物との接触は避けてください。動物に触ったら必ず手を洗いましょう。また、動物の死体等に接触することは控えましょう。

問合先 豊橋市保健所 保健医療企画課 主幹 山本（電話 39-9104）

